



小中学生による建設工事風景図画作品
つくば市立東小学校 / 重永旭翔さんの作品

主な内容

- ▼ 石津会長が大井川知事と対談
- ▼ 本会が「いばらきダイバーシティ宣言」
- ▼ 常設委員会が活動
- ▼ チャリティーゴルフの善意金を寄贈

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

本会はコンプライアンス(法令遵守)をさらに徹底します

発行 (一般社団法人) 茨城県建設業協会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局

これからも「地域を守る」建設業に

石津会長、大井川知事と語り合う



石津会長

本会の石津健光会長はこのほど、大井川和彦県知事と防災・減災、国土強靱化の重要性について語り合いました。大井川知事は最近の激甚化する自然災害を踏まえ「災害に強い県土づくり」の推進を強調。石津会長も『地域の守り手』という意識で県民の安全・安心を守っていく体制を作り、「今後も地域を守っていきたい」と決意を示しました。



大井川知事

—新たに始まった「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」について。

大井川知事 5か年加速化対策の初年度分の予算は、本年1月に成立した国の第3次補正予算に盛り込まれました。本県にも対策の推進に必要な予算が配分されたところであり、速やかに防災・減災、国土強靱化のための対策に取り組んでいきます。

具体的には、河道掘削や堤防整備などのハード対策と、マイ・タイムラインの普及促進などのソフト対策が一体となった流域治水対策などによる命を守るための事前防災の加速化のほか、橋

梁の耐震化などによる強靱な緊急輸送道路ネットワーク整備の加速化、ITを活用した道路管理体制の強化、重要インフラの老朽化対策の推進を図っていく予定です。



—5か年加速化対策では事業量が増えることが予測されます。業界としてできること、行政へのお願いなどは。

石津会長 5か年加速化対策や久慈川・那珂川の緊急対策プロジェクトの実施により、公共事業の発注額も増えてきています。一部では、業界の人手不足から不調・不落を心配する声もあるようですが、防災・減災、国土強靱化の推進、事業の円滑な実施に向け、協会挙げて取り組んでいきたいと考えています。そのためにも、発注時期・施工時期の平準化をお願いしたいと思います。

地域のことを一番分かっているのは、地域の建設業者です。事業量が増えてくると、発注者側としては、大ロットでまとめて発注した方が効率的だという考え方も出てくるとは思いますが、災害時の対応などを踏まえ、地域を熟知している地域建設業の育成という観点にも配慮いただきたいと思っています。



本会会員が災害復旧の最前線で対応

災害に強い県土づくり推進

いつでも対応できる体制を整備

—今後の防災に対する考え方は。

大井川知事 気候変動等による災害の激甚化・頻発化を踏まえ、ある程度の被害を許容した上で被害を最小限に抑える2段構えの考え方、ハードとソフトを組み合わせが大事です。

具体的には、国が取り組んでいる「流域治水」の考え方が物凄く良いと思います。頑丈で高い堤防を作ったとしても、想定を超えた災害が起きるのです。流域治水のようにリリースする考え方は理に適っていて発想の転換、政策の大転換と言えます。

石津会長 最近「50年に一度の大雨」のような「想定外」「規格外」の災害が毎年のように発生しています。近年の水害の状況を見ますと、堤防が決壊した箇所もありますが、越水が多く発生しています。現実に行っている災害を踏まえた対策が必要です。ハードだけでは防ぎきれないということを前提として、ハードとソフトの組み合わせによる対策が重要だと思います。

◇◇◇



—昨年の台風19号災害でも地元建設業者が復旧作業に尽力



国土強靱化の必要性などを語り合いました

—県土強靱化に向けた考えは。

大井川知事 道路や河川などの社会インフラは、社会・経済活動を支えるとともに、県民が安全で安心して暮らせる社会を実現するために必要不可欠なものであり、県の総合計画においても「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向け、「新しい安心安全」へのチャレンジとして「災害に強い県土づくり」の推進を掲げています。

県としては、今後のウィズコロナ・ポストコロナ時代の財政状況が厳しい中においても、国の「5か年加速化対策」などの県財政にとって有利な財源を有効に活用しながら、引き続き「災害に強い県土づくり」を強力に推進していきたいと思っています。

石津会長 建設業は「地域の守り手」という意識を非常に高く持っています。地元の方々が喜んでくれることを意気を感じて仕事をしています。県内どこで働いていても仲間という意識を持ち、県民の安全・安心を守っていくことが、われわれの大きな責務です。いつ大きな災害が来るかわかりません。いつでも対応できる体制を取り、これからも地域を守っていききたいと思います。

本会も「いばらきダイバーシティ宣言」

誰もが能力を発揮できる社会に

本会では「いばらきダイバーシティ宣言」を発表しました。性別等にかかわらず、一人ひとりが尊重され、誰もが個々の能力を発揮できる社会、多様性が受容されるダイバーシティ社会の実現に取り組めます。

茨城県知事や団体等のトップが取り組みを宣言し、県全体でダイバーシティ社会づくりに取り組んでいくというメッセージを発信するものです。7月2日には「いばらきダイバーシティ宣言キックオフセレモニー」が開かれ、本会からは石津健光会長が出席しました。



石津会長（最前列右から2人目）が宣言書を手記念撮影



いばらきダイバーシティ宣言

急速な人口減少社会の進展や少子高齢化、経済・社会のグローバル化の進行など、社会情勢は大きく変化しております。

このような中、活力があり、持続可能な地域社会をつくるためには、多様な人材の活用により、ニーズの変化や急激な環境の変化などのリスクへの対応力を高めることが重要であると考えます。

その実現のためには、年齢や性別、国籍、障がいの有無、性的指向・性自認等にかかわらず、一人ひとりが尊重され、誰もが個々の能力を発揮できる社会、多様性が受容されるダイバーシティ社会の実現が求められています。

私たちは、ダイバーシティ社会の実現に向けて次のことに取り組むことをここに宣言します。

- 一人ひとりの個性を尊重し、誰もが個々の能力を発揮し、活躍できる環境整備を進めます。
- 公共工事における一斉休工日の設定や建設現場における ICT 活用など、働き方改革や生産性向上に取り組み、多様な人材の入職促進に努めます。
- 女性部会「建女ひばり会」の活動を促進し、女性が入職、活躍できる建設産業づくりに取り組みます。

令和3年7月2日

一般社団法人 茨城県建設業協会

会長

石津健光

CCUS普及へ対応を

経営企画委員会



経営企画委員会（佐々木孝夫委員長）が6月23日に水戸市の茨城県建設会館で開かれ、令和3年度の実施事業を協議しました。建設キャリアアップシステム（CCUS）普及、関東DX・i-Construction 人材育成センター見学などICT人材の育成に取り組みます。佐々木委員長は「より良い活動を進めていきたい」とあいさつしました。

生産性向上へ県と意見交換

土木委員会



土木委員会（梅原基弘委員長）は6月25日、茨城県土木部検査指導課・監理課との意見交換会を水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催しました。生産性向上や就労環境の改善に向けICT活用促進工事や総合評価方式、電子契約などについて意見を交わしました。梅原土木委員長は「実りある意見交換に」とあいさつしました。

働き方改革や女性活躍を

人財開発委員会



人財開発委員会（高橋修一委員長）が6月18日に水戸市の茨城県建設会館で開かれ、本年度に実施する事業を協議しました。本年度も働き方改革や女性活躍に関するセミナーなどを開催し、建設業の人材確保・育成への取り組みを推進します。高橋委員長は「質の高い委員会活動を進めたい」とあいさつしました。

講習会開き技術向上へ

県建産連が総会



茨城県建設産業団体連合会（会長・石津健光本会会長）は令和3年度定時総会を6月29日に水戸市の茨城県建設会館で開き、令和3年度の事業計画を決定しました。スキルアップセミナーや各種セミナーを開催し、加盟企業の技術力向上や経営基盤の強化に貢献します。意見交換も行い、加盟団体間の意思疎通も進めていきます。

水戸支部
活動報告道路パトロールで
説明会

水戸支部（下田德行支部長）は6月18日、地震時道路パトロールおよび災害活動証明書発行の説明会を水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催。茨城県水戸土木事務所からパトロールの手順や報告内容などの説明を受けました。水戸土木からは「1時間半程度を目安にファクスなどでご一報いただければ」と話がありました。

大子支部
活動報告町と電源
供給で協定

左から益子勇宇副支部長、高梨町長、大藤支部長、椎名義正副支部長

大子支部（大藤博文支部長）は6月10日、大子町と新たな「災害時の電源供給に関する協定」に調印しました。地震や台風などによる大規模停電発生時に避難所などに発電機で電源を供給し、地域社会に貢献します。大藤支部長は「協定を強化することで避難した場合も安心して利用できる場所を確保できるようにしたい」と話しています。

鉾田支部
活動報告鉾田工事と
意見交換

鉾田支部（羽生義隆支部長）は6月3日、茨城県鉾田工事事務所（鈴木愼一所長）との意見交換会を支部会館で開催しました。支部では工事書類の簡素化や工事発注時の問題点などの要望を提出。活発な意見交換を行いました。鈴木所長は「有意義な意見交換会に」と強調。羽生支部長は「地域の守り手として優良なインフラ整備を行い、地域の発展に付与していく」とあいさつしました。

鉾田支部
活動報告刈払機の
取扱講習会

鉾田支部（羽生義隆支部長）は6月28日、茨城県鉾田工事事務所（鈴木愼一所長）の協力を得て現場担当技術者を対象とした刈払機取り扱い安全講習会を支部会館で開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回に分けて実施。除草作業時の安全管理に関する認識をさらに深めました。羽生支部長は「講習会は大変貴重。今後の作業に活かしてほしい」とあいさつしました。

潮来支部
活動報告

安全大会で ゼロ災害誓う



潮来支部（松崎里志支部長）は第19回鹿行地区建設業安全大会を6月22日に鹿嶋市の鹿嶋勤労文化会館で開催。安全衛生活動表彰や講話を通じて意識の高揚を図り、労働災害ゼロを誓いました。大会長の松崎里志支部長は「安全衛生活動は、企業にとっても、働く労働者にとっても第一に取り組まなければならない」とあいさつしました。

筑西支部
活動報告

献血活動に 協力



筑西支部（小薬拓巳支部長）は6月21日、地域貢献活動の一環として献血活動を行いました。当日は支部会員や一般から56人が参加し、貴重な血液を提供しました。小薬支部長は「血液が不足している中、社会貢献活動の一環として、ぜひ協力をお願いしたい。活動は今後も継続していきたい」と話しています。

常総支部
活動報告

常総工事と 意見交換



常総支部（中川原勇支部長）は6月4日、茨城県常総工事事務所（浦和振所長）との意見交換会を支部会館で開催。県によるICT活用促進工事や完全週休2日制促進工事、総合評価方式などについて意見を交わし、担い手の確保・育成、生産性向上に向けた取り組みを進めていくことを協議しました。意見交換は新型コロナウイルス感染症対策として少人数で行いました。

境支部
活動報告

安全講習で 無事故確認



境支部（新井孝支部長）は5月20日、茨城県境工事事務所の協力のもと安全衛生講習会を開催しました。新型コロナウイルス感染予防対策として2回に分け、オンラインで実施。無事故8策（①法令順守②危険予知③始業点検④相互理解⑤安全確認⑥適正配置⑦拙速厳禁⑧整理整頓）を確認しました。新井支部長は「災害時は、いち早く駆け付けるのが我々の使命」と呼び掛けました。

DX 推進へ検討会

今後の方向性協議



本会は、建設業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組むための検討を進めています。6月24日には検討会を水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催し、他県の事例や国土交通省の取り組みなどを研修。今後、関係者と共に方向性を検討していきます。検討会には石津健光会長など正副会長、常設4委員会の委員長、建設未来協議会の正副会長が出席しました。

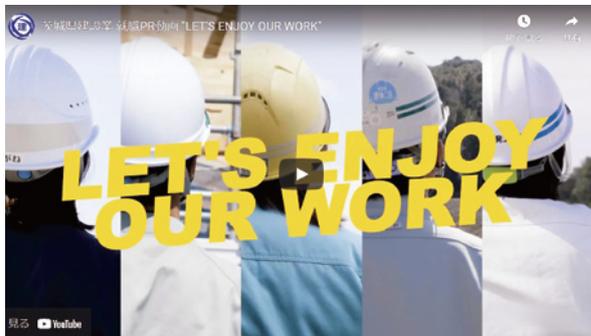
支部対抗チャリティーゴルフ大会 善意金を寄託しました



石津会長（右）が目録を贈呈しました

本会は7月2日、支部対抗チャリティーゴルフ大会で寄せられた善意金13万9,000円を茨城新聞文化福祉事業団に寄託しました。チャリティーゴルフ大会は6月14日、つくばみらい市の筑波カントリークラブで開催したものです。皆様のご協力、まことにありがとうございました。

建設業への就職 PR用動画を作成



就職PR用動画のトップ画面

本会は、県内建設業への就職PR用YouTube動画を作成、公開しました。県内で活躍する会員企業の若手5人のインタビューを中心に地元建設業の魅力を伝えています。

動画に出演しているのは、小金杏莉さん（株梅原工務店）、田中直人さん（常磐建設株）、小室愛花さん（日立土木株）、野川恵裕さん（高橋建設株）、小沼友琴さん（常総開発工業株）。それぞれの現場を通じ、業界に入職したきっかけ、やりがいなど建設業の魅力を伝えています。

本会の女性部会「建女ひばり会」の活動も紹介。女性が働きやすい環境づくりに取り組んでいることも紹介しています。

動画は、本会が立ち上げた「いばらき建設業就職応援サイト」の広報的役割も担っています。

動画は本会ホームページのトップページから視聴できます。

会員の動向

〈代表者変更〉

- ▽土浦支部
白田組土木株 園部信夫 → 白田二郎
- ▽竜ヶ崎支部
樋口土木株 高橋正男 → 樋口 篤